

オランダ・ワーゲニンゲン大学訪問

Prof. Geert Wiegertjes との共同研究討論

2018年4月16日から19日の日程で、研究拠点形成事業のオランダ研究拠点校であるワーゲニンゲン大学を訪問しました。同大学のProf. Geert Wiegertjesの研究室には、私の研究室の学生の横山吟司君が留学中であり、魚類免疫システムのエピジェネティック制御機構を解析する共同研究が進行中です。今回は、共同研究に関する双方の進捗を確認すると共に、今後の研究の進め方などについての討論を行いました。横山君によってProf. Wiegertjes研究室での実験系が確立され、興味深い結果も得られつつあります。Prof. Wiegertjes、横山君の他に、研究室メンバーも交えた報告および討論では、これまでに得られた実験結果を精査すると共に、今後どのような実験を行いそれをどのようにまとめて公表するか、など、具体的な共同研究プランを時間をかけて討論することができました。これは今後さらに共同研究を展開する上で、大きな収穫でした。



研究打合せに加えて、ワーゲニンゲン大学のいくつかの施設を見学する機会も得られました。Dr. Wiegertjesには、共同研究で解析するゼブラフィッシュが飼育されている水産実験施設を案内していただきました。また、ワーゲニンゲン大学に滞在中の、CFAI 農免疫部門作物免疫ユニットの宮下脩平博士の案内で、様々な植物が栽培されている巨大な温室も見学することができました。管理が行き届いたこのような施設の存在が、ワーゲニンゲン大学の教育研究のアクティビティーを下支えしていることが理解できました。



今回私がワーゲニンゲン大学を訪れたのは、長い冬が終わり、ちょうど本格的な春が始まった時期でした。草木が一斉に芽吹き、花が咲き始めるとても気持ちの良い季節でした。大学内でも、屋外で食事や日光浴を楽しむ学生の姿も多く見かけました。我々もディスカッションで疲れた頭を屋外での食事などでリフレッシュし、十分な討論をすることができました。

CFAI、安全・機能評価部門(副センター長) 原田昌彦